

# 木古内町子どもの読書活動推進計画

(令和2年度～令和6年度)



木古内町教育委員会

## ごあいさつ

木古内町では、平成27年度に「木古内町子どもの読書活動推進計画」（5ケ年）を策定し、子どもの読書活動を推進してまいりました。中央公民館図書室では、子どもたちに本や物語に親しむ機会を提供し、多くの親子に参加していただいています。学校では、本と出会う機会を積極的に設けてきたことで、子どもたちの読書活動が広がっています。

近年、日本の社会は、少子高齢化、核家族化、高度情報化が進み、大人に限らず子どもたちの生活環境にも大きな変化が現れています。子どもたちの生活には、テレビ、パソコンやスマートフォン、ゲームなどの映像や電子メディアの情報があふれ、生活時間や物への興味・関心も多様化しています。その中で読書習慣の未形成などにより子どもの「活字離れ」「読書離れ」が憂慮されています。

また、全国・学力学習状況調査からは、学力と読書は相関関係にあることが指摘されています。

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものであり、社会全体でその推進を図っていく必要があります。

このため、これまでの読書活動推進の現状と課題を踏まえ、向こう5ケ年の「第2次木古内町子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動推進の充実を図ってまいります。

この計画により、木古内町のすべての子どもたちが、あらゆる場所や環境の中で読書と出会い、その中に楽しさや充実感を見つけ、豊かな心を育む大きなきっかけとなることを願っております。

結びに、本計画の策定にあたり、ご協力いただきました公民館運営審議会委員をはじめ、学校・保育園等の関係者の皆様から多くの貴重なご意見やご助言をいただきましたことに心から厚く感謝を申し上げます。

令和2年5月1日

木古内町教育委員会  
教育長 野村 広章

# 目 次

## 第1章 計画の基本的な考え方

- 1 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## 第2章 現状と課題

- 1 木古内町の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 第一次計画の成果と課題

## 第3章 子どもの読書活動推進のための方策

- 1 家庭における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・ 3
- 2 学校における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・ 4

## 第4章 読書環境の整備のための方策・・・・・・・・ 5

## 資 料

- 1 全国学力学習状況調査結果・中央公民館図書室年度別利用状況 6
- 2 子どもの読書活動の推進に関する法律・・・・・・・・ 7
- 3 第4次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の  
概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 4 北海道子どもの読書活動推進計画〈第4次計画〉概要・・・・ 12
- 5 用語解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13



# ■第1章 計画の基本的な考え方

## 1 計画策定の趣旨

木古内町では、平成13年12月に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき、子どもたちが読書活動を通じて生きる力を身につけ、豊かな心を育み、健やかに成長できるよう総合的及び計画的に読書環境整備を推進する体制づくりと人材育成を目的とし、平成27年4月に「木古内町子どもの読書活動推進計画」（以下、「第1次計画」という。）を策定しました。

このたび、5ヶ年の「第1次計画」が終了することから、第1次計画を引き継ぐとともに、国の第4次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」および第4次「北海道子どもの読書活動推進計画」の方針を踏まえ、「第2次木古内町子どもの読書活動推進計画」を策定します。

## 2 計画の対象

計画の対象は、概ね0歳から18歳とします。  
なお、次の4つの期間に分け、各期における特徴に応じて推進します。

- ◆乳幼児期 0歳～ 6歳（本に出会う）
- ◆小学生期 6歳～12歳（本に親しむ）
- ◆中学生期 12歳～15歳（本から学ぶ）
- ◆高校生期 15歳～18歳（本と生きる）

## 3 計画の期間

令和2年度から令和6年度までの5年間とします。



## ■第2章 現状と課題

### 1 木古内町の現状

「第1次計画」の初年度である平成27年度と最終年度となる平成31年度の全国学力学習状況調査での読書に関する結果を比較しました。

「1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に「全くしない」と回答した児童生徒は、小学生では51.7%から8.3%に、中学生では27.0%から21.8%と減少しており、小中学校での朝読書などの取組の成果が表れています。しかし、1日の読書時間が「10分未満」と回答した児童生徒は、「全くしない」と回答した児童生徒と合わせて、小学生では、72.4%から37.5%に減少していますが、中学生は45.9%から43.6%とほぼ横ばいの状況です。

また、中央公民館図書室の利用状況は、幼児の利用人数が増加傾向にあり、ブックスタート事業などでの啓発活動の成果が見られるものの、小学生の利用は大きく減少しており、中高生の利用はほとんどない状況となっています。

### 2 第一次計画の成果と課題

前述のとおり、小中学校での一斉読書や中学校国語科でのブックトークやポップづくりなどの読書に関心を持たせる取り組みやブックスタート事業による成果が見える一方、中央公民館図書室での子どもたちへの読書活動推進は既存の事業を継続するにとどまりました。

とりわけ、「読書活動に関わるボランティアの養成・活用」が思うような成果をあげることができず、子どもたちを対象とした「図書だより」の発行や図書室事業の定期的な開催につなげることができませんでした。

これらの子どもたちを図書室へ誘導し、読書に興味を持たせるための取り組みを推進するためには、PTA活動や社会教育事業との連携をより深めることが重要となります。



無名塾ジュニア 本の読み聞かせ



## ■第3章 子どもの読書活動推進のための方策

子どもの成長過程において、読書は喜びをもたらすだけでなく、豊かな感性を養い、考える力や創造力、他者への思いやりなどを醸成する上で欠くことができません。また読書活動は、様々な課題を解決する方法を自らの力で探求する力も育てると考えられます。

このことから、子どもの読書習慣を育むために、発達段階に応じた家庭・保育園・学校・地域がそれぞれ読書推進活動を展開し、連携を図りながら読書環境を整備していくことが求められます。

### 1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

子どもが自然に本に親しみを持ち、読書習慣を身につける上で、家庭は大切な役割を担っています。特に親子のふれあいとなる家庭での自然な読み聞かせは、温かであわせた家族の交流の場となるだけでなく、積み重ねた楽しい経験として子どもたちの将来の読書習慣を育てると考えられます。

地域において読書活動を推進するためには、乳幼児期から読書習慣が身につくよう、効果的な事業を実施することが望まれます。また、子育て支援事業やPTA活動などにおいて、子どもの読書活動の重要性などについて、広く啓発することが必要となります。

#### 【具体的な取り組み】

##### 《 家庭 》

- 子どもの読書習慣の定着にむけた「家読」の取組の推進

##### 《 中央公民館図書室 》

- 「家読」の取組を推進する啓発活動の実施
- 母子手帳交付時の「ママのブックスタート」事業の推進
- 乳幼児健康診断等の機会を利用した「ブックスタート」事業の継続
- 「子ども読書の日」「子どもの読書週間」の趣旨にふさわしい図書室イベントの実施
- 各期を対象とした「図書だより」の発行

##### 《 関係機関等 》

- PTAなどによる研修会等の実施

## 2 学校等における子どもの読書活動の推進

乳幼児期や小学生期における読み聞かせや、様々な本に触れる機会を増やすことは、子どもたちが新たな世界に興味や関心を広げることにつながります。また、中学生期における読書は、自我の確立や進路選択などに大きな影響を与えるものです。

このため、学校等においては、子どもの発達段階に応じた計画的・継続的な読書活動の推進が求められています。

### 【具体的な取り組み】

#### 《 保育園 》

- 保護者や中央公民館図書室と連携した読書活動の実施

#### 《 学 校 》

- 「朝読書」など一斉読書の積極的な推進
- ブックトーク、ビブリオバトル、POP作成などの手法を活用した読書活動の推進
- 学校の教育活動全般を通じての多様な読書指導の展開
- 図書委員会などによる児童生徒の自主的な読書活動の推進
- 保護者や中央公民館図書室との連携による読書活動の推進

#### 《 中央公民館図書室 》

- なかよし移動文庫などを活用した図書の紹介と読書活動の啓発



木古内小学校なかよし移動文庫





## ■第4章 読書環境の整備のための方策

中央公民館図書室は、全ての子どもたちが気軽に利用でき、好きな本を選び読書の楽しみを知ることができる場所であることが求められています。

木古内町の読書活動の中心的な役割を果たすため、中央公民館図書室の活発な活動を推進するとともに、北海道立図書館等との連携により、計画的な整備の充実を図ることが必要です。

また、学校図書館は、自由な読書活動の場として、子どもの成長を支える重要な役割を担っています。昼休みや放課後にいつも使える子どもたちの「心の居場所」となるよう、中央公民館図書室や保護者と連携を図り、計画的・継続的な整備・充実に努める必要があります。

### 【具体的な取り組み】

#### 《 中央公民館図書室 》

- 本に興味を持てるような配架や蔵書の充実
- 学校図書館と連携した環境整備の推進
- 発達段階に合わせた広報活動の実施
- 読み聞かせやイベントの定期開催による読書活動の推進
- 意見箱の設置など町民の声が反映できる図書室の整備
- 図書室サポーターなどボランティア活動の推進
- 北海道立図書館の支援事業を活用した環境整備の推進

#### 《 学校図書館 》

- 読書活動や学校図書館の利用についての啓発
- 中央公民館図書室と連携した環境整備の推進
- 図書委員等によるPOP作成など読書への関心を高める取組
- 「なかよし移動文庫」などを活用した蔵書の充実





# 資 料

1. 全国学力学習状況調査結果

「1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか？」回答結果

小学生(対象学年 6年生)

(単位:%)

調査実施年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
対象児童数	21人	26人	24人	18人	24人
2時間以上	3.4	0.0	8.3	5.6	4.2
1時間以上2時間より少ない	13.8	3.8	8.3	0.0	8.3
30分以上1時間より少ない	3.4	23.1	20.8	22.2	4.2
10分以上30分より少ない	6.9	38.5	25.0	27.8	45.8
10分より少ない	20.7	15.4	16.7	38.9	29.2
全くしない	51.7	19.2	20.8	5.6	8.3

中学生(対象学年 3年生)

(単位:%)

調査実施年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
対象児童数	30人	22人	21人	23人	25人
2時間以上	5.1	0.0	0.0	0.0	4.3
1時間以上2時間より少ない	8.1	4.5	10.5	9.1	4.3
30分以上1時間より少ない	13.5	9.1	26.3	9.1	8.7
10分以上30分より少ない	27.0	22.7	36.8	45.5	39.1
10分より少ない	18.9	22.7	26.3	22.7	21.8
全くしない	27.0	40.9	0.0	13.6	21.8

2. 中央公民館図書室年度別利用状況

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
利用人数	幼児	69	119	175	184	200
	小学生	1,234	1,369	671	420	531
	中学生	30	38	107	61	62
	高校生	5	13	4	7	13
	一般	1,076	1,001	912	1,067	1,138
	合計	2,414	2,540	1,869	1,739	1,944
貸出人数	幼児	5	24	17	23	20
	小学生	651	425	243	115	112
	中学生	6	9	28	2	2
	高校生	0	1	0	1	0
	一般	705	438	413	551	739
	合計	1,367	897	701	692	873
貸出冊数	幼児	13	84	63	101	99
	小学生	1,624	1,184	693	380	445
	中学生	7	13	76	5	3
	高校生	0	1	0	3	0
	一般	1,795	1,377	1,507	1,697	2,061
	合計	3,439	2,659	2,339	2,186	2,608